

万博のレガシーが変える 関西の未来



2026年3月18日



りそな総合研究所

1. 2025年が持つ2つの意味

2. 関西の不都合な真実

3. 関西の明るい未来に向けて

1-1 2025年の持つ意味

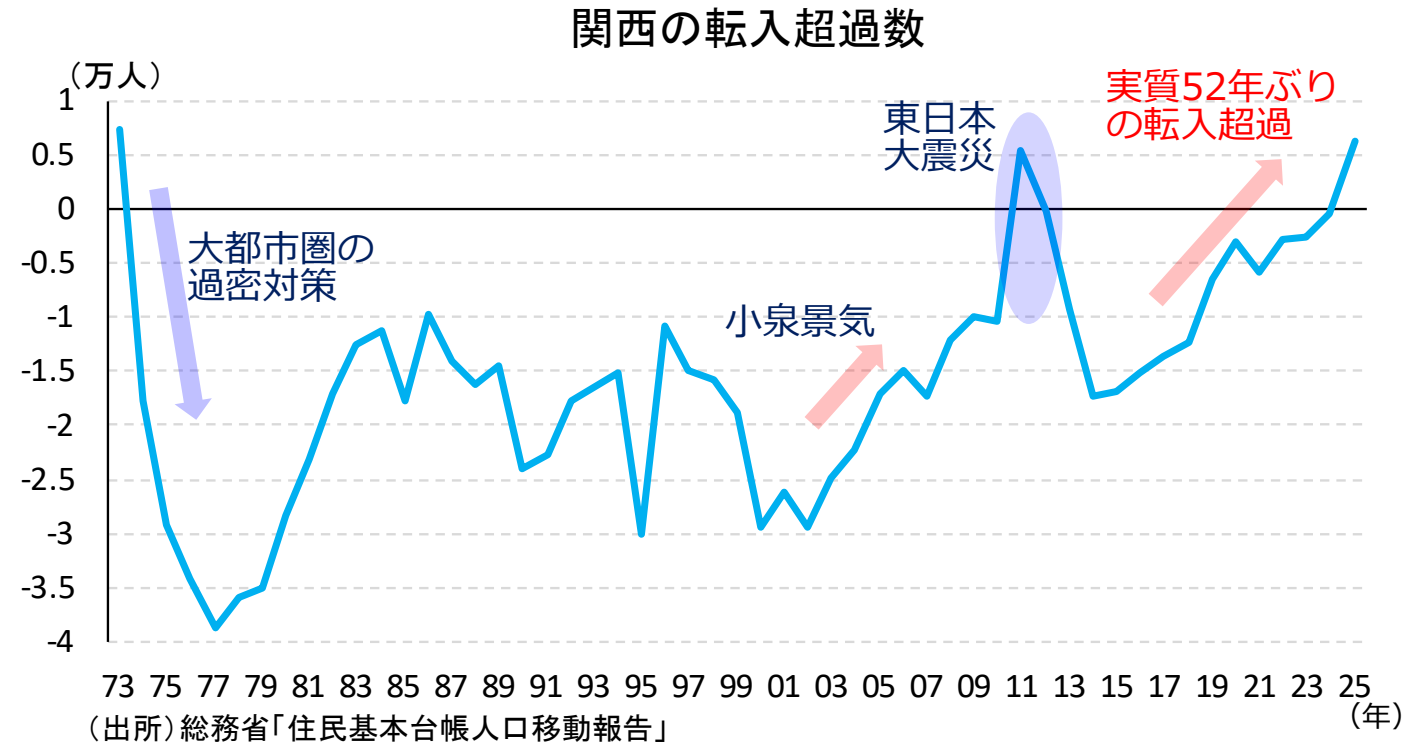
2025年 = 関西にとって特別な年

① 大阪・関西万博

- 国内外から2千数百万人が来場
- 数兆円規模の経済効果
- 大阪・関西を世界にPR

② ? ?

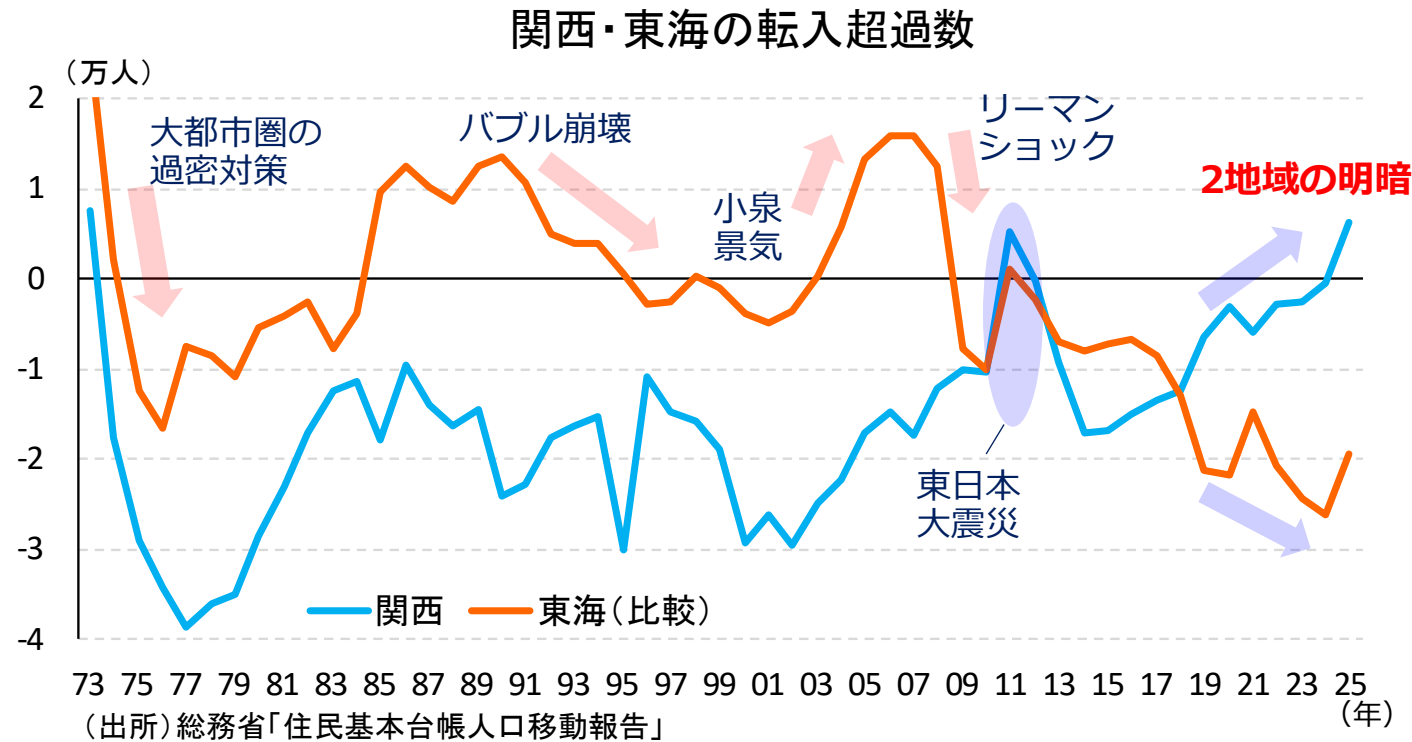
1-2 関西の人口移動の改善



■ 実質52年ぶりの転入超過

- ▷ 実質的には1973年以来
- ▷ 全国では首都圏と関西のみ
- ▷ 関西は“地盤沈下”の汚名を返上

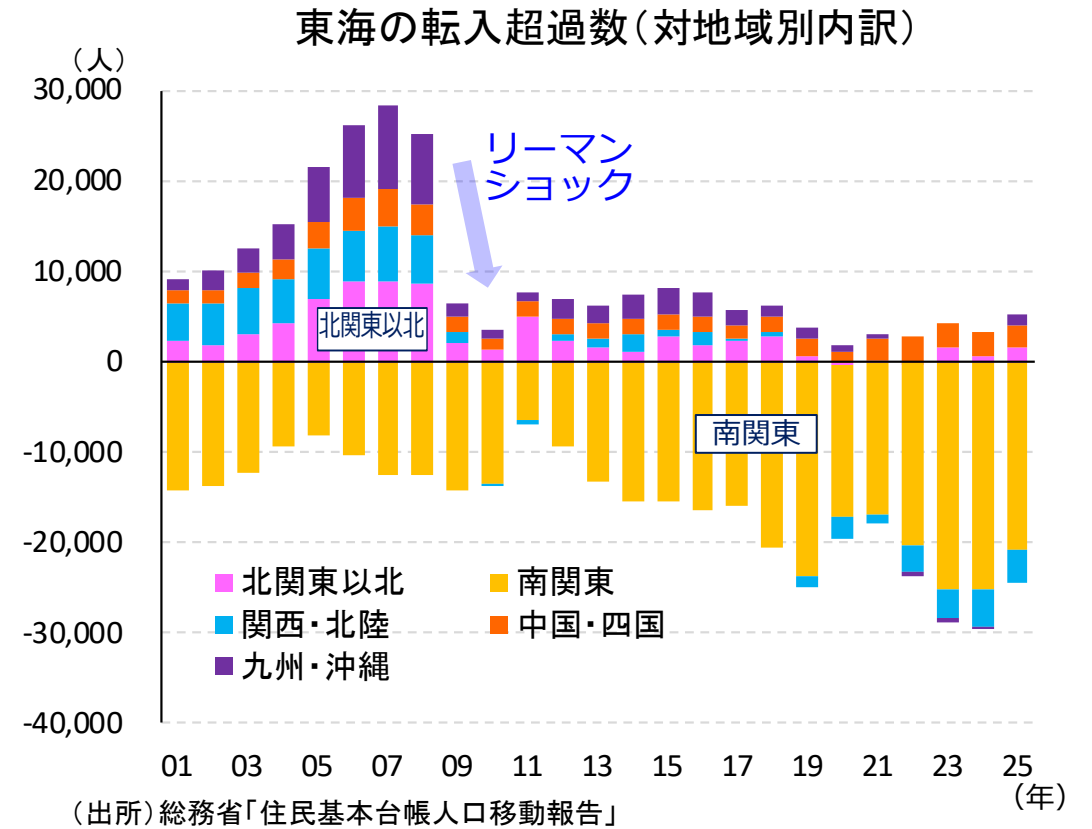
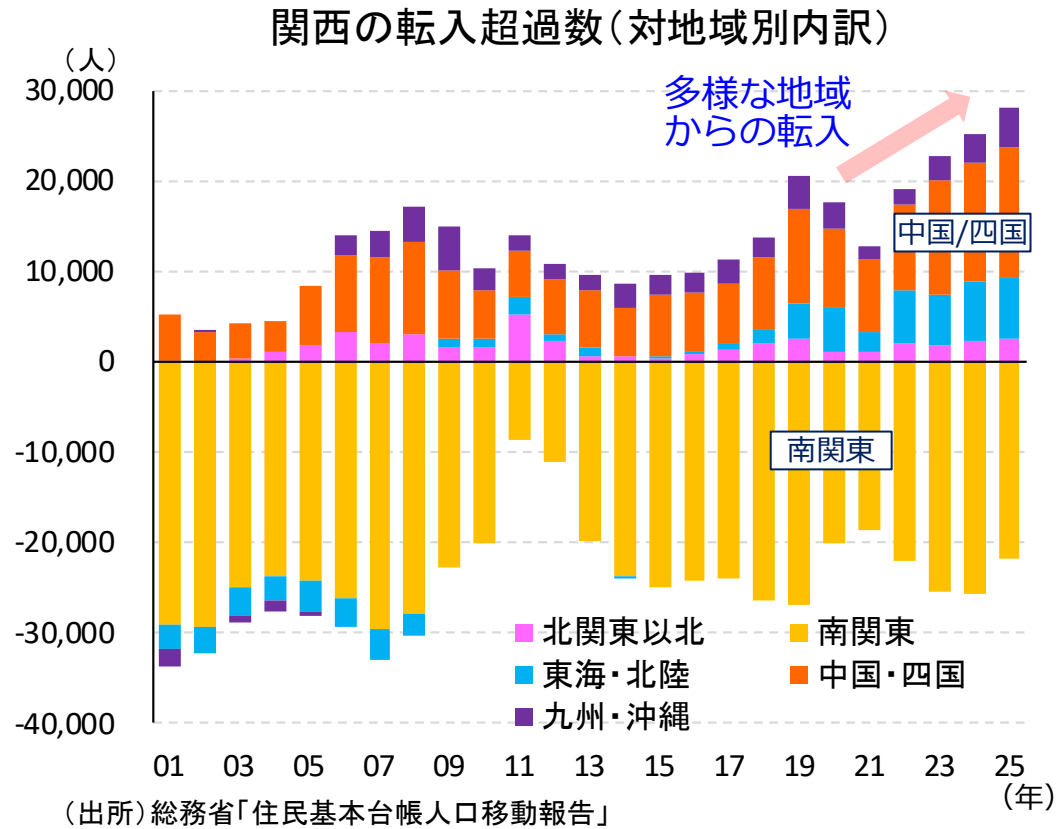
1-3 関西と東海の長期的推移



■ 関西と東海の明暗

- ▷ 東海で続く人口の流出
- ▷ かつては、東海 > 関西
- ▷ 東海の悪化により、関西の強さが強調

1-4 関西と東海の比較（対地域別内訳）



1-5 関西の人口移動の改善要因

4つの主要な要因

① 訪日客市場の拡大（域内投資・雇用の増加）

2011年の訪日客消費:約2千億円 → 2025年:約2.8兆円

② 大型PJによる関西の成長期待

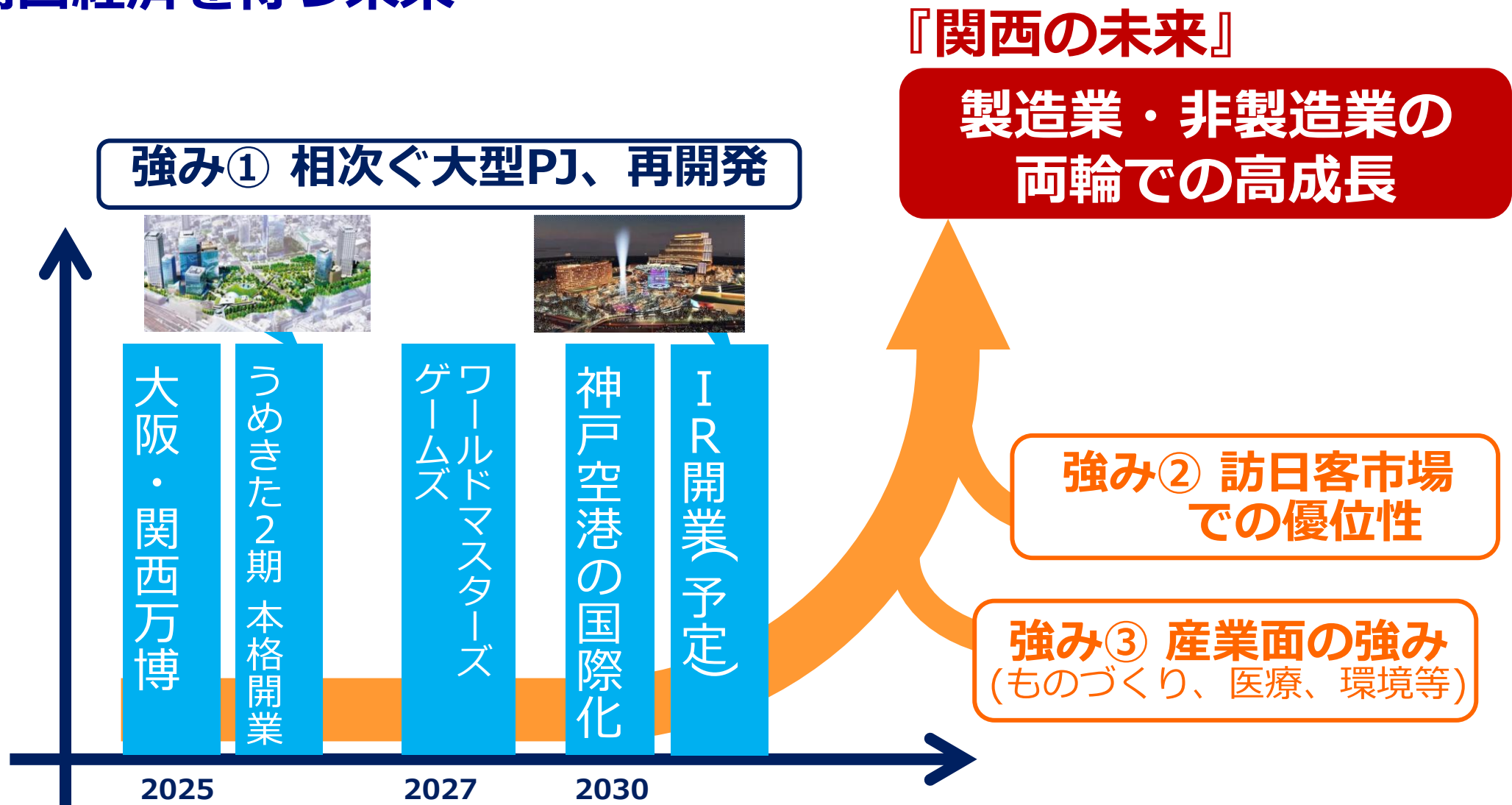
万博、IR、神戸空港国際化、各地の再開発(梅田等)

③ テレワークの定着（居住地の多様化）

④ 東京の住宅価格高騰（東京離れの動き）

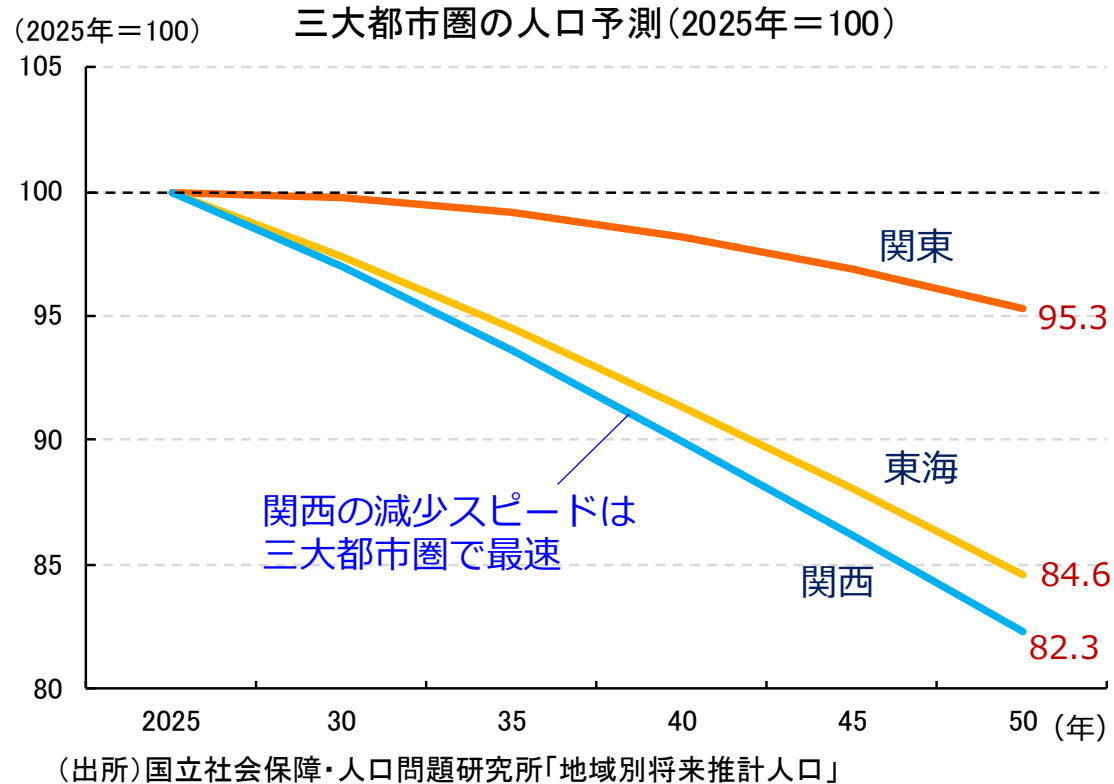
分譲マンション価格の高騰から、賃貸住宅の賃料上昇に波及

1-6 関西経済を待つ未来



1. 2025年が持つ2つの意味
- 2. 関西の不都合な真実**
3. 関西の明るい未来に向けて

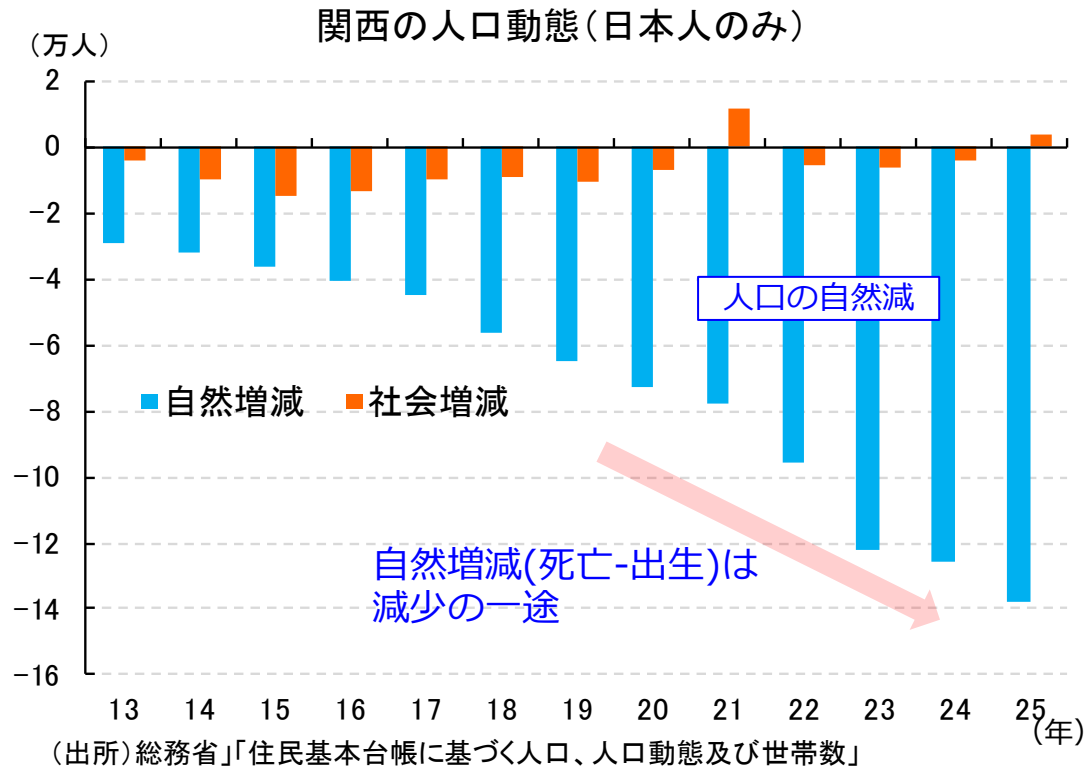
2-1 関西経済の“不都合な真実”



■ 関西のネック“人口減少”

- ▷ 三大都市圏で人口減少の速度は最速
- ▷ バブル崩壊の後遺症
- ▷ 人口減の早さ → 人手不足の深刻さ

2-2 関西の人口動態の現実

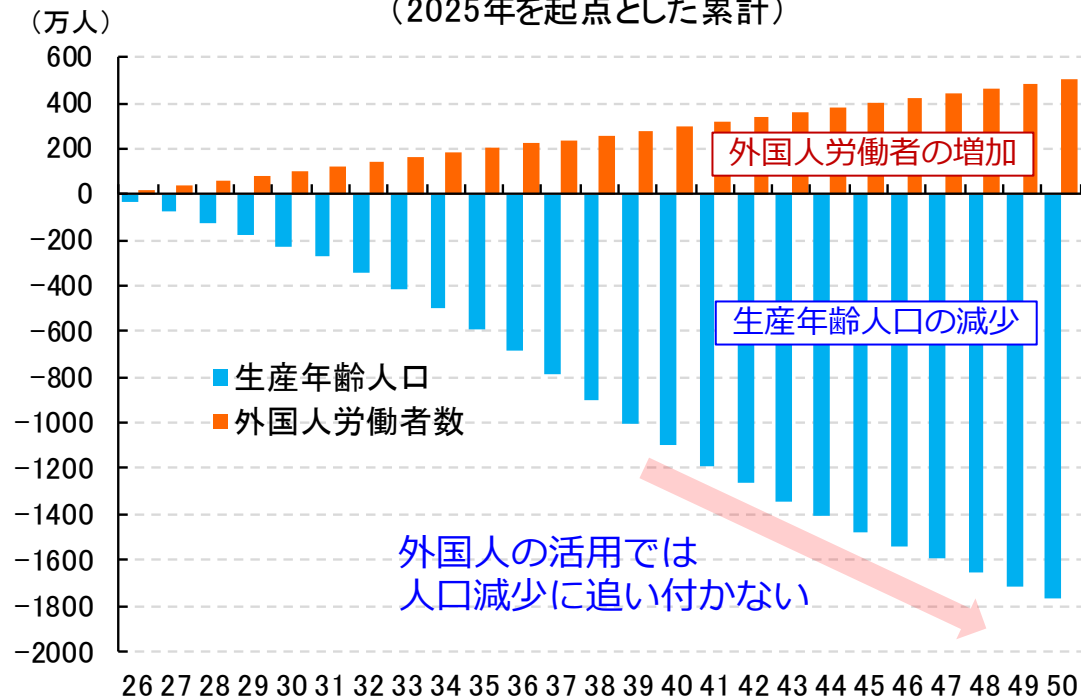


■ 関西の人口トレンド

- ▷ 人口移動はプラスに転換も
- ▷ 人口の自然減は年々拡大
- ▷ 人口の変化は自然増減のスピードで決まる

2-3 望ましい人手不足対策とは

生産年齢人口と外国人労働者の変化予測
(2025年を起点とした累計)

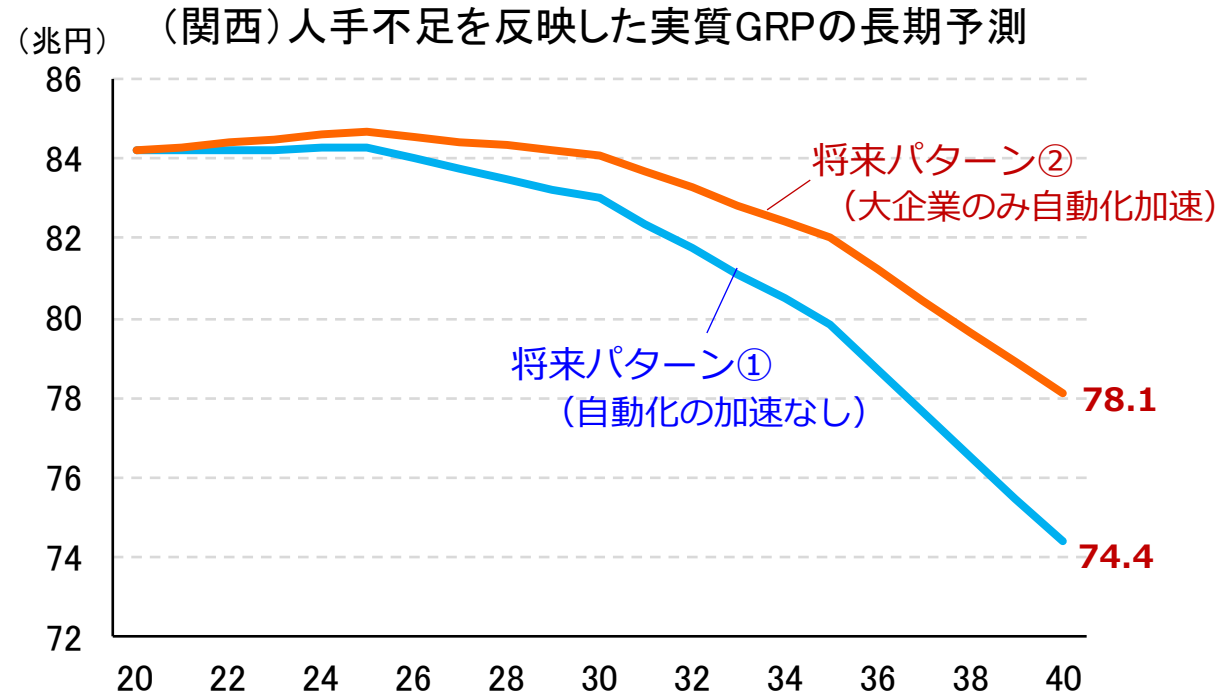


(出所) 国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計」、厚生労働省「外国人雇用状況」などをもとに、リそな総研作成

■ 外国人への依存は危険

- ▷ 外国人の活用では人口の減少に追いつかない
- ▷ 今後は中国の人口減少も加速（人材争奪戦の激化）
- ▷ 外国人の上限規制の導入？

2-4 カギを握る自動化・省力化

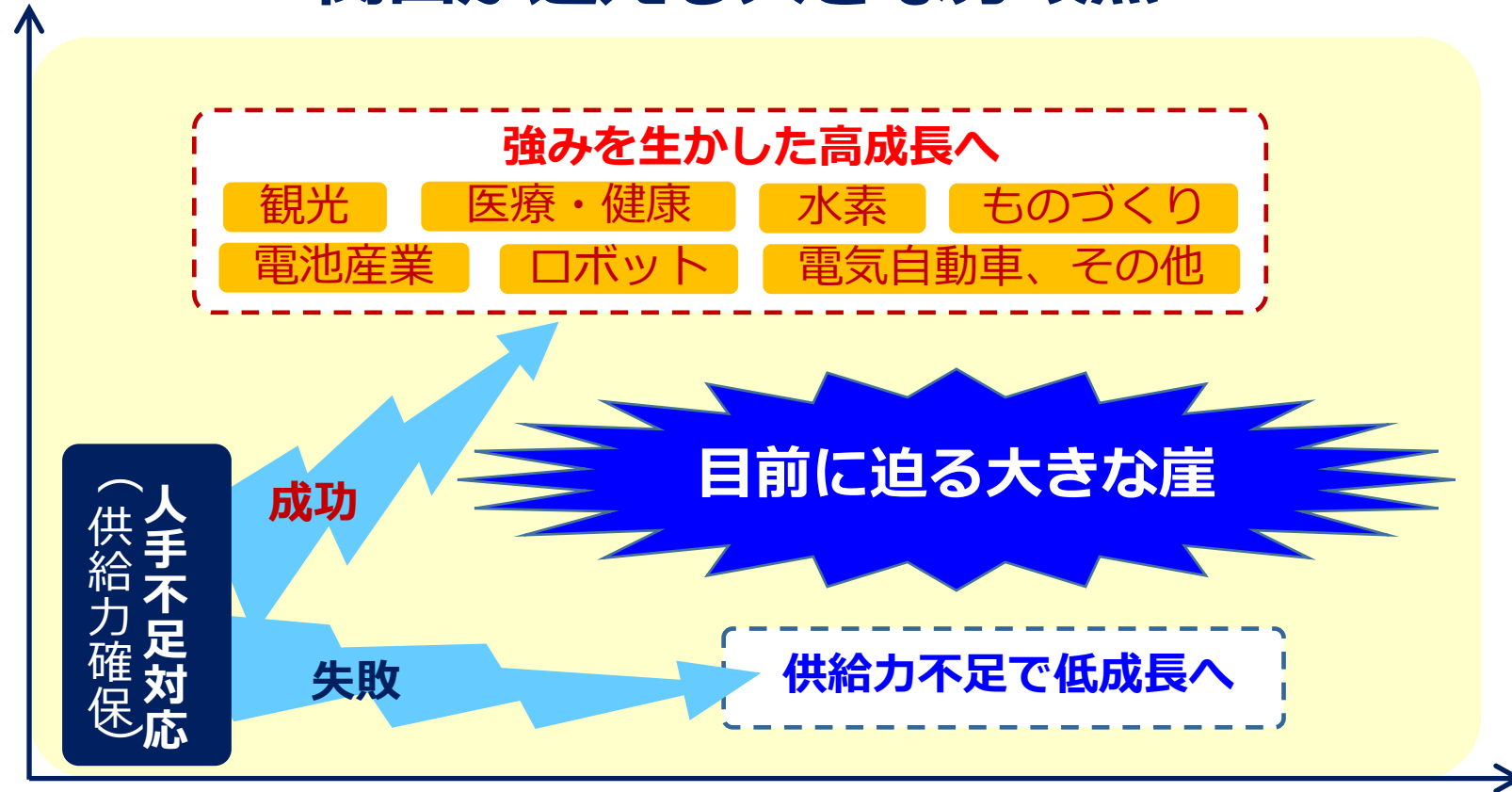


■ 人手不足による成長鈍化

- ▷ 働き手の不足は経済成長の鈍化に直結
- ▷ 現行の政策では経済の縮小が避けられず

2-5 関西経済を待つ2つの未来

関西が迎える大きな分岐点



1. 2025年が持つ2つの意味
2. 関西の不都合な真実
3. 関西の明るい未来に向けて

3-1 万博のレガシーが担うべき役割

万博のレガシーが変える関西の未来

① 夢洲の集客拠点化 ⇒ 観光市場のさらなる拡大

- ▷ 夢洲の一大観光拠点化に向けた動きに期待
- ▷ キタ、ミナミ、京都に次ぐ、関西の“第4の拠点”づくりへ

② 新たな技術の実装 ⇒ 人手不足の緩和へ

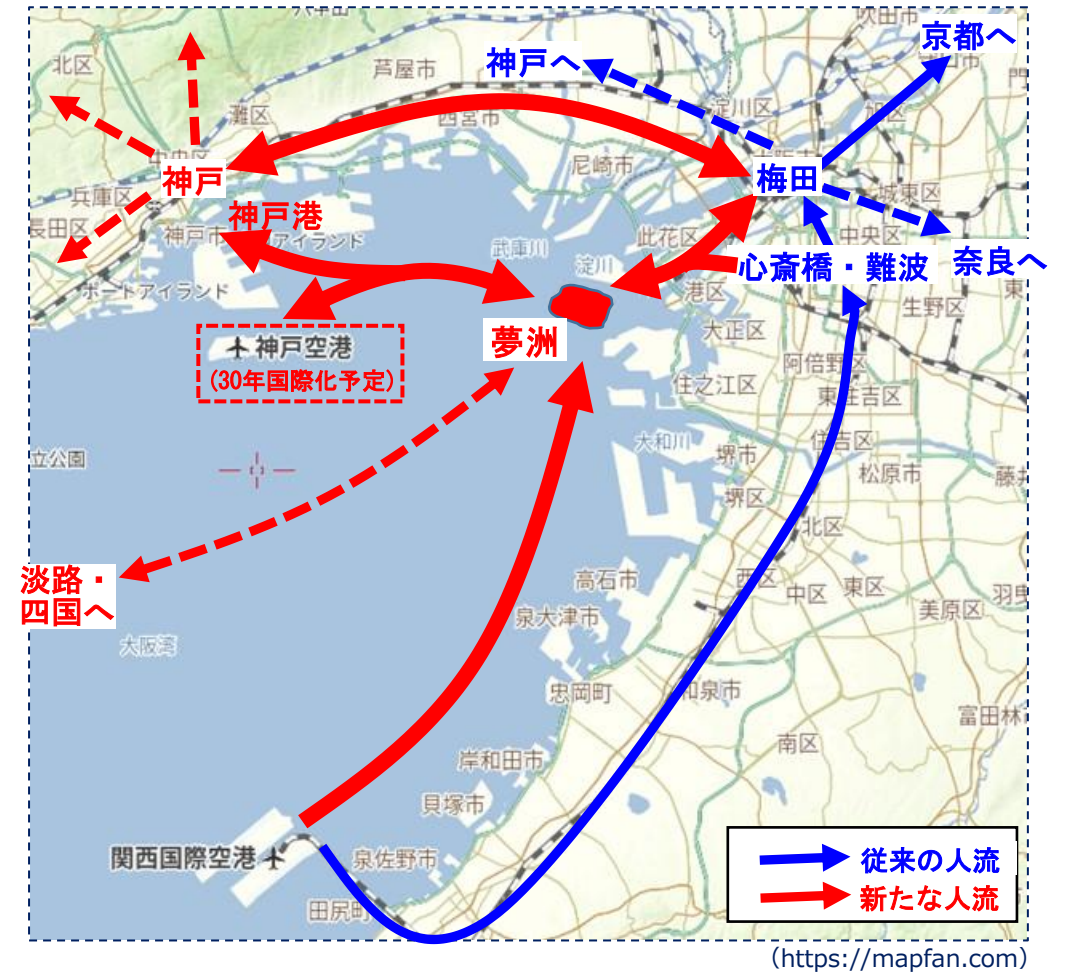
- ▷ 万博の“真のレガシー”。新たな技術の社会実装
- ▷ 万博で披露された技術等の棚卸しと、実装へのロードマップが必要

3-2 関西が迎える2030年の転機

■現在の訪日客の主な流れ



■2030年前後に生まれる新たな人流（イメージ）



3-3 万博の“真のレガシー”

「万博を機に、関西で自動化に向けた取り組みを本格化」

- ▷ “**省力化による人手不足対策**”への意識向上
- ▷ 万博で披露された技術、アイデアを実装につなげるための**仕組みづくり**
- ▷ 重要なのは、**中小企業が活用可能**な自動化商品。多くの展示物に埋もれた技術を探せ

■アシストスーツ（ミズノ）



(出所) ミズノホームページより